研究紀要　第9号　95－110頁　2001年3月
㈶とちぎ生涯学習文化財団　埋蔵文化財センター

〔研究ノート〕

栃木県内における弥生時代の土坑について
―山崎北遺跡の土坑群の検討から―

今平（こんぺい）　昌子（まさこ）

Ⅰ　はじめに
Ⅱ　山崎北遺跡の土坑群
Ⅲ　土坑の分類
Ⅳ　各遺跡の概要
Ⅴ　おわりに

山崎北遺跡において確認された土坑群の検討をもとに、弥生時代の県内の土坑を集成・分類した結果、土坑は5つに分類できることが判明した。それらの土坑のうち、礫と粘土塊が確認された土坑は墓である可能性が考えられ、栃木県において弥生時代中期前半以降はほとんど不明であった中期後半の墓制の一端を明らかにする。

Ⅰ　はじめに

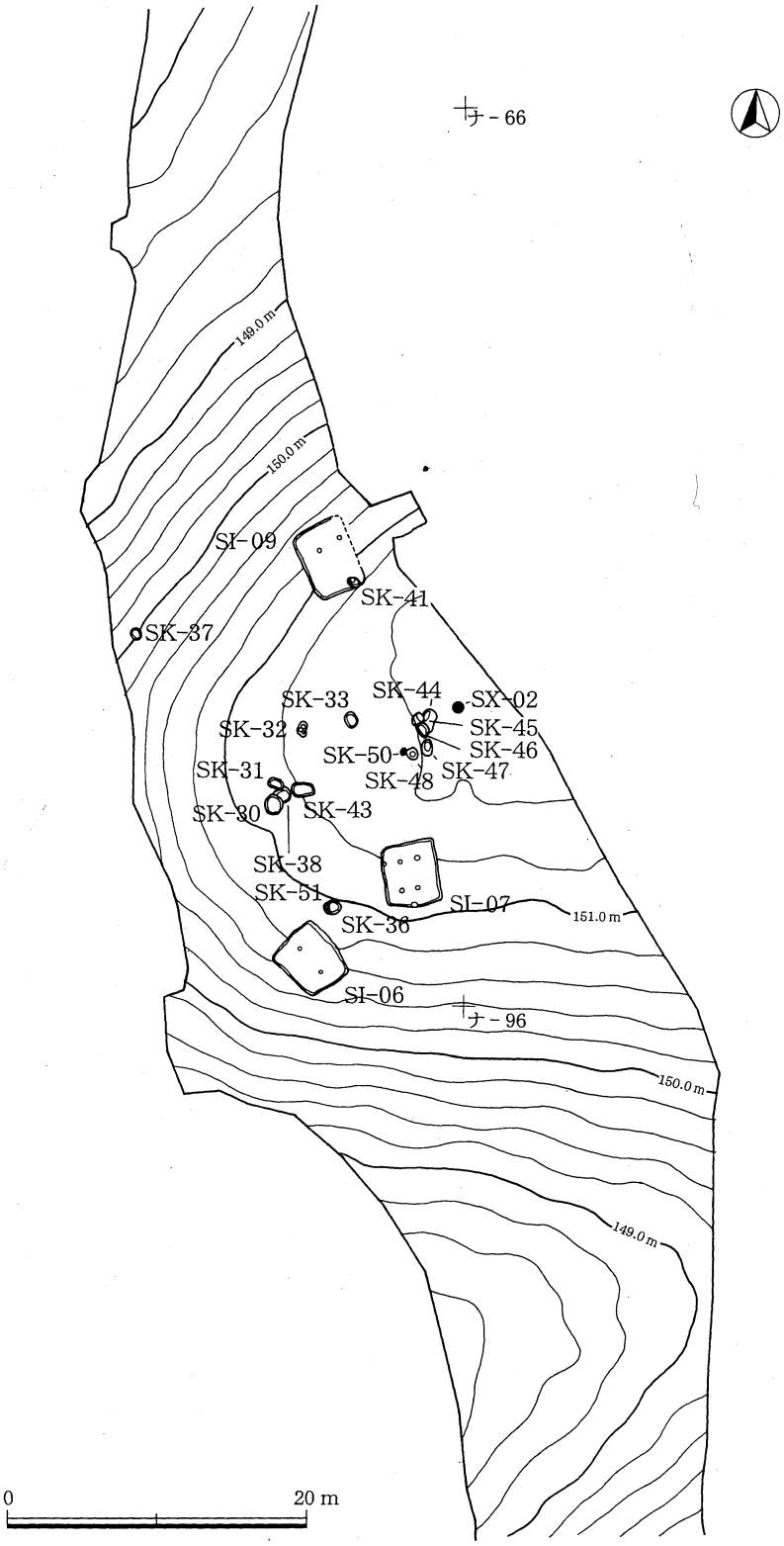
県内における弥生時代の研究は古く、1894年に小林与三郎氏により野沢遺跡の発掘がなされたことから始まる。この遺跡からは人面付土器や、土器の中から管玉が出土したことが小林与三郎・沼田頼輔氏により報告されている（小林・沼田1900）。これは後に再葬墓であることが判明している。

また1964年には明治大学によって出流原遺跡が調査され、37基の再葬墓が確認されている。この土坑群の中から出土した土器には時間差があまりみられないことがわかり、連続的に営まれた集団墓地あるいは共同墓地として考えられた（杉原1984）。

その後も、戸木内遺跡（石川ほか1985・1986、内山1997）や清六Ⅲ遺跡（上原1999）などでこの手の遺構が確認され、中期前半の墓制についてはその状況が判明しつつある。

しかし、中期後半から後期の墓制については、諏訪山遺跡における土器棺墓など（田代1994）が確認されているのみで、ほとんど明らかになっていない。藤田典夫氏は、土器の類似性から墓制においても東北地方と同様の土器棺墓や土坑墓であった可能性を指摘している（藤田1998）。

筆者は、1997年に山崎北遺跡を調査する機会に恵まれ、その際に覆土中に粘土や礫を含む土坑を確認した（今平1998）。これは藤田氏が指摘した土坑墓の可能性がある。そこで本稿では、



第１図　山崎北遺跡遺構分布図

県内の土坑を集成・分析し、弥生時代の土坑の状況を把握するとともに、他県の類例を参考に本県弥生時代中期後半以降の墓の形態について考えてみたい。

Ⅱ　山崎北遺跡の土坑群

山崎北遺跡は宇都宮市駒生町に所在する。標高は150m前後で、姿川やその支流の鎧川などの小河川により開析された舌状台地の先端に立地する。低地との比高差は約6mである。

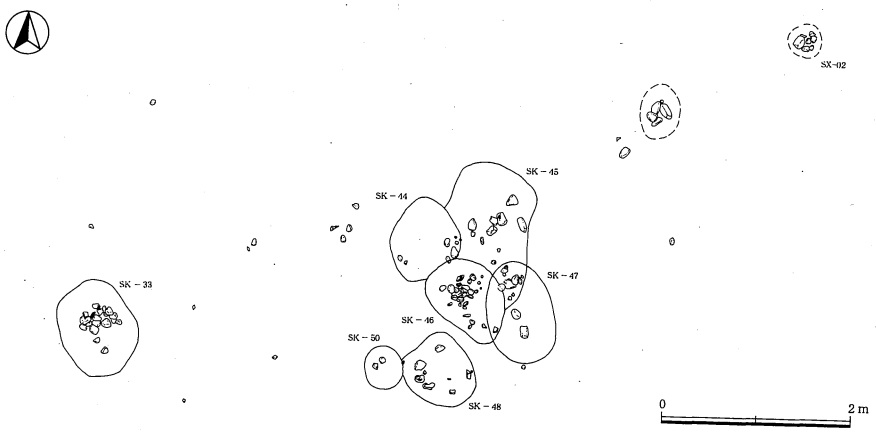
中期後半の集落跡が確認されている。台地の一番高いところに土坑群が存在し、それを中心に、斜面上に住居跡が３軒営まれている。土坑の中には、遺物の出土が少ないため、時期の判別が難しく、報告書では時期不明としているものも存在するが、確認された状況から、弥生時代の土坑と考えた土坑は全部で16基ある。

この16基を、土坑内から確認されたものを基準として分類した結果、Ⅰ～Ⅳ類の４つに分類することが可能である。

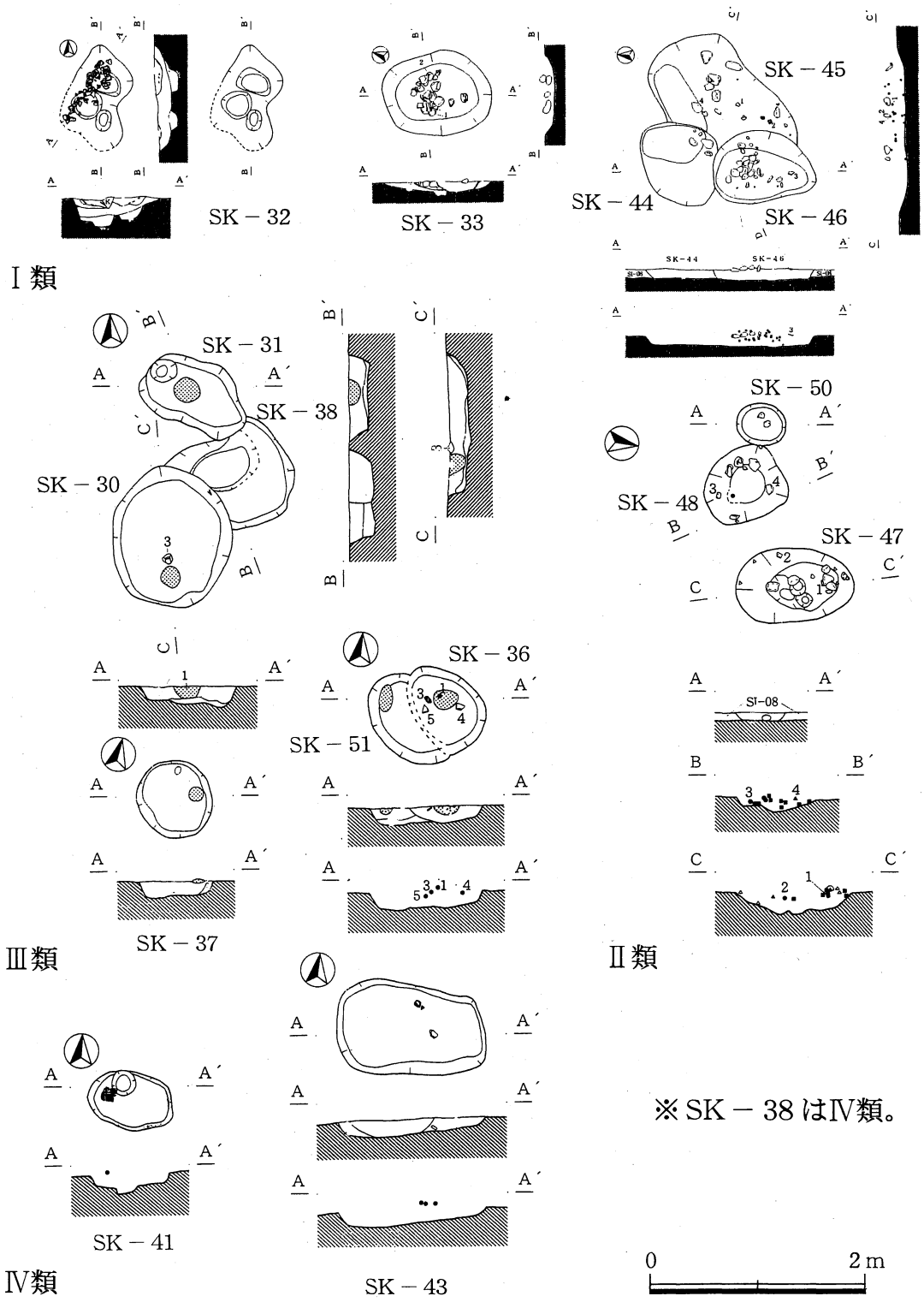
Ⅰ類はSK-32である。土器棺墓と考えられるものである。土坑内には３つのピットが確認され、１個体分の壺が出土ししている。土器の型式は東北地方の川原町口式に併行する時期のものである。

Ⅱ類は覆土上層に礫が集中して確認されたものである。SK-33・44～48・50がこれにあたる。縄文時代早期の住居跡内に構築され、7基のほかにも、調査時には確認できなかった土坑がSX-02などのように礫の集中部分に存在している可能性が高い（第２図)。出土した礫は被熱しているものが多く、また磨石などの石器が再利用されているものもある。また、SK-33では被熱している礫に炭化物が付着するものが確認されている。

Ⅲ類は覆土の上層に粘土塊が確認されたものである。SK-30・31・36・37・51がこれにあた



第２図　山崎北遺跡集石確認状況



第３図　山崎北遺跡Ⅰ～Ⅳ類

る。遺構確認時にも粘土がはっきりと確認でき、土坑の存在がわかり易かった。粘土は乳白色のもので、採取された場所などは不明である。

Ⅳ類は少量の遺物が出土するものである。土器の破片や石鏃が出土している。SK-38・41・43がこれにあたる。SK-38は覆土中からアメリカ式石鏃が出土し、SK-41は住居跡の床面から土坑の存在が確認され、壺の胴部が覆土上層から確認された。

全体的に、山崎北遺跡の土坑は100cm前後の規模のものが多く、確認面からの深さは深いもので約50cm、ほとんどが10cm前後のものである。覆土は地山との区別がつきにくいものが多かった。自然埋没の可能性もあるが、掘ってからほとんど時間の経たないうちに埋め戻された可能性が高い。

Ⅲ　土坑の分類

山崎北遺跡で確認されたⅠ～Ⅳ類の土坑を中心に、さらに県内の土坑を含めて分類すると第4図のように大きく５分類できる。

土坑
- 個体となる土器が出土（Ⅰ類）
- 礫が上層より確認される（Ⅱ類）
- 粘土が確認される（Ⅲ類）
- 土器の破片・その他の遺物が出土する（Ⅳ類）
- 遺物なし（Ⅴ類）

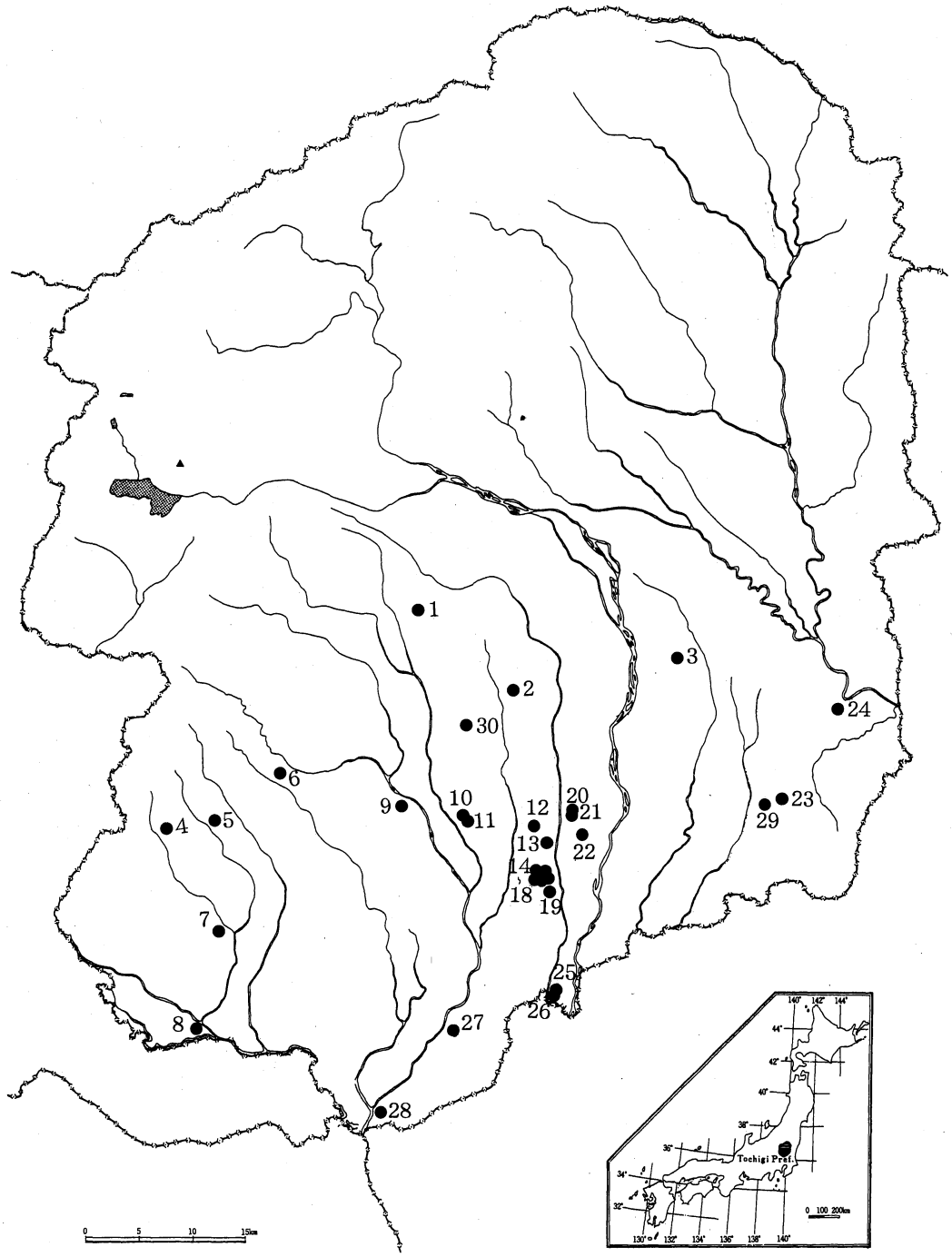
第４図　土坑の種類

Ⅰ類　いわゆる再葬墓と考えられる土坑である。この中には土器棺墓も含む。再葬墓と土器棺墓の区別の仕方などについては簡単に述べることができないため、次回に譲り、今回はⅠ類として括った。大きさは150cm以下の土坑が中心である。佐野市の出流原遺跡や野木町の清六Ⅲ遺跡・粟野町の戸木内遺跡などがある。足利市の中日向遺跡・国分寺町の諏訪山遺跡などでは壷の胴部を器とし、土器片で蓋をしたような状態で確認されている。

Ⅱ類　覆土上層や覆土中に礫が纏まって確認されるところに特徴がみられる。大きさは100cm前後のものが多い。戸木内遺跡でも確認されている。今回は礫が何個か出土していても、纏まって確認されない土坑は割愛した。

Ⅲ類　土器片などの出土もみられるが、覆土上層や覆土中に粘土が確認されるものである。大きさは100cm前後のものが多い。県内では山崎北遺跡で確認されているのみである。

Ⅳ類　覆土中から土器の破片など、少量の遺物しか出土しないものである。大きさは25～300cm前後と様々である。上三川町の大山遺跡や磯岡遺跡・磯岡北遺跡など、多数の遺跡で確



１上山遺跡　２山崎北遺跡　３免の内台遺跡　４町屋遺跡　５上仙波遺跡　６戸木内遺跡
７出流原遺跡　８中日向遺跡　９小倉水神社裏遺跡　10御新田遺跡　11富士前遺跡
12殿山遺跡　13大山遺跡　14下古館遺跡　15諏訪山遺跡　16谷館野東遺跡　17上芝遺跡
18鳥森遺跡　19柴工業団地内遺跡　20磯岡北遺跡　21磯岡遺跡　22仏沼遺跡　23新福寺遺跡
24箕輪遺跡　25八幡根東遺跡　26田間東道北遺跡　27乙女不動原亀田遺跡　28清六Ⅲ遺跡
29長堤遺跡　30鹿沼流通業務団地内遺跡

第５図　栃木県内の土坑確認遺跡

認されている。

Ⅴ類　何も出土しない土坑である。大きさは50～300cm前後と様々なものが多い。周囲の状況や流れ込んだ土器などから弥生時代の土坑と考えられるものである。今市市の上山遺跡や国分寺町の烏森遺跡などで確認されている。

これらの中でⅣ類とⅤ類の判断は難しく、検討の余地がある。

Ⅳ　各遺跡の概要

県内では全部で30遺跡152基の土坑が確認されている。土坑の大勢を占めるのはⅠ類である（第１表）。ここでは、墓という機能の想定されているⅠ類以外で、特徴のある土坑が確認されている遺跡の概要を説明する。（第５図）

・上山遺跡

今市市に所在する。沖積地を臨む扇頂部に立地し、標高は325m前後で低地との比高差は約８mである。中期後半の住居跡１軒と住居跡と同時期と考えられている土坑が確認されている。Ⅴ類である。ここで確認されている袋状土坑がこの時期の土坑とするならば、山崎北遺跡において陥し穴状土坑として報告した土坑も、同様の形態を示していることから弥生時代の土坑の可能性が考えられる。

・戸木内遺跡

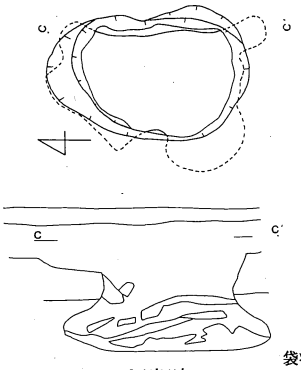
粟野町に所在する。段丘面上に立地し、標高は175m前後で低地との比高差は約６～８mである。Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ類が確認されている。Ⅰ類の土坑群が確認されている第１～３次調査地点から北東へ100m程の第４次調査地点に、Ⅱ類になるSK-29の集石とその下から深さ30cm前後の土坑2基が確認されている。集石内や土坑内からは変形工字文の甕などが出土し、時期的に前期である可能性が高い。大量の礫を積み上げられるなど、山崎北遺跡の土坑とは様相を異にする。集石とまではいかないが、SK-34では数点の礫が覆土中から出土している。

・富士前遺跡

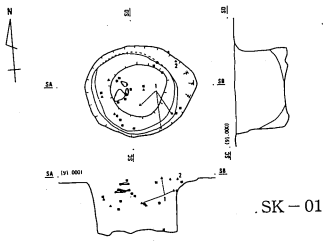
壬生町に所在する。台地の末端部に立地し、標高は90m前後で低地との比高差は約10mである。Ⅳ類である。中期後半の住居跡が１軒と、住居跡から少し離れたところに同時期と考えられる土坑が１基確認されている。土坑の底面は上げ底状になり、周溝状に周囲が下がっている。遺物は覆土の中層から上層に多く出土している。

・谷館野東遺跡

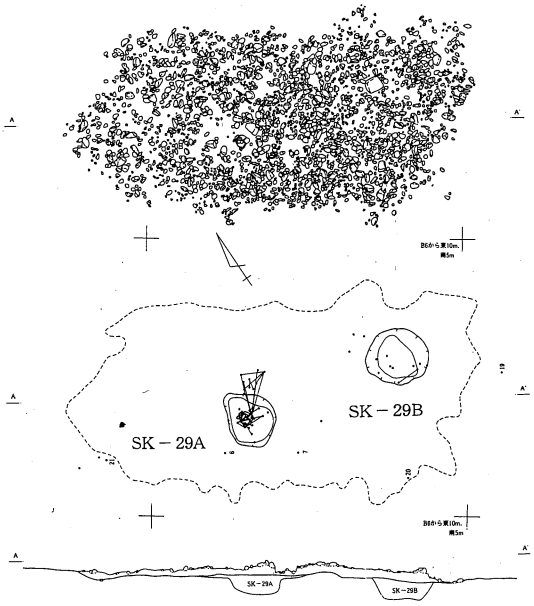
国分寺町に所在する。台地縁辺に立地し、標高は54m前後で低地との比高差は約３mである。Ⅳ類である。住居跡より離れた地点に土坑が存在し、土坑内より剥片や石核・石器が出土している。石器製作跡に関わる遺構であったか、または近くに石器製作跡が存在し、剥片などが投



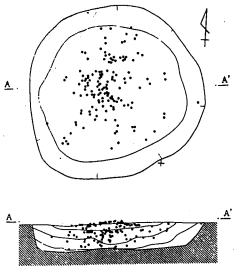
上山遺跡



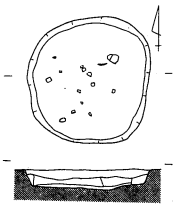
富士前遺跡



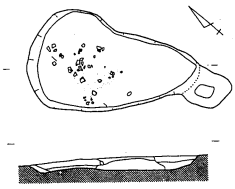
戸木内遺跡



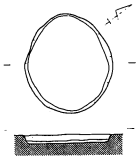
谷館野東遺跡



B1－SK－001

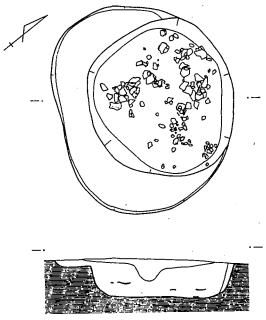


B1－SK－002

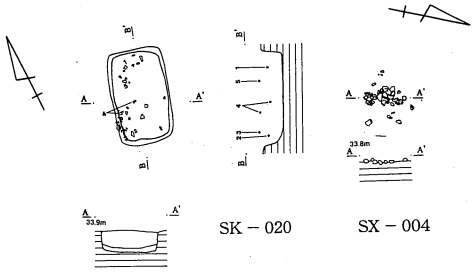


B2－SK－015

烏森遺跡



磯岡北遺跡



田間東道北遺跡

第６図　栃木県内の土坑

第１表　栃木県内土坑一覧

番号	遺跡名	所在地	出土遺構名	分類	形状	長軸	短軸	深さ	覆土	出土遺物	時期	備考
1	上山	今市市土沢	袋状土壙	Ⅴ	楕円形	300	200	160	自然埋没か	-	時期不明	今市市教委分
			土壙1	Ⅴ	円形	120	117	13	不明	-	時期不明	今市市教委分
			土壙2	Ⅴ	不整円形	130	125	20	不明	-	時期不明	今市市教委分
			土壙3	Ⅴ	不整円形	125	120	25	不明	-	時期不明	今市市教委分
			土壙4	Ⅴ	楕円形	125	110	15	不明	-	時期不明	今市市教委分
			土壙1	Ⅴ	楕円形	218	140	200	自然埋没	-	時期不明	県教委分
			土壙2	Ⅴ	楕円形	236	145	196	自然埋没	-	時期不明	県教委分
			土壙3	Ⅴ	楕円形	250	142	200	自然埋没	-	時期不明	県教委分
2	山崎北	宇都宮市駒生町字道下・久保	第30号土坑	Ⅲ	楕円形	136	112	18	人為埋土か	破片・礫器	中期後半	
			第31号土坑	Ⅲ	不整楕円形	102	68	20	人為埋土か	-	中期後半	
			第32号土坑	Ⅰ	不整形	200	110	50	人為埋土	壺一部	中期後半	
			第33号土坑	Ⅱ	楕円形	102	80	20	自然埋没	磨石	時期不明	礫に炭化物付着
			第36号土坑	Ⅲ	楕円形	86	60	16	人為埋土か	甕破片	中期後半	
			第37号土坑	Ⅲ	円形	78	70	16	人為埋土か	-	中期後半	
			第38号土坑	Ⅳ	不整楕円形	136	108	22	人為埋土か	石鏃	中期後半	
			第41号土坑	Ⅳ	隅丸長方形	80	52	16	人為埋土か	壺一部	中期後半	
			第43号土坑	Ⅳ	隅丸長方形	148	92	16	人為埋土か	甕破片	中期後半	
			第44号土坑	Ⅱ	不整円形	90	74	8	人為埋土か	甕破片か・礫	中期後半	
			第45号土坑	Ⅱ	隅丸長方形	104	96	4	人為埋土か	甕破片か・磨石	時期不明	
			第46号土坑	Ⅱ	不整楕円形	96	70	8	人為埋土か	甕破片か・礫	時期不明	
			第47号土坑	Ⅱ	楕円形	110	70	8	人為埋土か	甕破片か・礫	時期不明	
			第48号土坑	Ⅱ	不整円形	80	74	8	人為埋土か	甕破片か・石皿	時期不明	
			第50号土坑	Ⅱ	楕円形	48	40	8	人為埋土か	甕破片か・礫	時期不明	
			第51号土坑	Ⅲ	楕円形	96	70	18	人為埋土か	-	中期後半	
3	免の内台	芳賀町下高根沢	SK- 1	Ⅰ	楕円形	124	110	30	人為埋土	壺・蓋・鉢ほか	前期末～中期前葉	
4	町屋	田沼町飛駒字町屋	-	Ⅰ	円形	120	-	-	不明	壺・甕	中期中葉	
5	上仙波	葛生町仙波・上仙波	第1号土壙	Ⅰ	楕円形	165	135	40	不明	壺・台付鉢・甕	中期前半	
			第2号土壙	Ⅰ	楕円形	107	85	20	不明	壺・甕・剥片	中期前半	
6	戸木内	粟野町上永野字戸木内	1号	Ⅰ	円形か	(70)	-	-	不明	壺・管玉	中期前半	
			2号	Ⅰ	円形か	(100)	-	-	不明	壺	中期前半	
			3号	Ⅰ	円形か	(90)	-	-	不明	壺・深鉢か	中期前半	
		粟野町上永野字戸木内	2K1-SK-01	Ⅰ	長円形	100	68	-	不明	壺か	中期前半	
			2P2-SK-01	Ⅰ	不整円形	150	135	-	不明	壺・礫	中期前半	土坑の可能性
			2P2-SK-02	Ⅰ	長円形	93	78	8	不明	壺・管玉・礫	中期前半	のある土器の
			2P4-SK-01	Ⅰ	長円形か	(140)	100	-	不明	壺	中期前半	集中あり。
			2P4-SK-02	Ⅰ	長円形	56	46	-	不明	壺	中期前半	
			2Q1-SK-01	Ⅰ	不整形	(70)	(40)	-	不明	甕・管玉	中期前半	
			2Q1-SK-02	Ⅰ	不整形	100	-	-	不明	壺	中期前半	
			2Q1-SK-03	Ⅰ	不整形	-	80	-	不明	壺	中期前半	
			2Q1-SK-04	Ⅳ	不整形	300	150		不明	壺破片	中期前半	
		粟野町上永野字戸木内79番ほか	SK-27	Ⅳ	円形	120	-	30	不明	破片・礫器	前期末葉	土坑の可能性
			SK-28	Ⅳ	楕円形	210	140	20	不明	甕破片	前期末葉	のある土器の
			SK-29A	Ⅱ	円形	98	77	26	人為埋土	甕・礫	前期末葉	集中あり。
			SK-29B	Ⅱ	円形	100	89	30	人為埋土	甕破片・礫	前期末葉	
			SK-33	Ⅳ	不整形	58	45	37	不明	甕破片	時期不明	
			SK-34A	Ⅰ	長楕円形	120	90	10	不明	壺・小形鉢・礫	前期末葉	
			SK-34B	Ⅰ	長楕円形	(240)	(210)	30	不明	壺・小形鉢・礫	前期末葉	
7	出流原	田沼町出流原町1057-1?3・1058	第１号墓壙	Ⅰ	楕円形	-	(90)	(30)	不明	壺・管玉	中期中葉	
			第２号墓壙	Ⅰ	不整形	(200)	(145)	(40)	不明	壺・管玉	中期中葉	
			第３号墓壙	Ⅰ	楕円形	(125)	(100)	(30)	不明	壺・甕	中期中葉	
			第４号墓壙	Ⅰ	楕円形	(120)	(100)	(35)	不明	壺・管玉	中期中葉	
			第５号墓壙	Ⅰ	楕円形	(100)	(70)	(20)	不明	壺	中期中葉	
			第６号墓壙	Ⅰ	楕円形	(90)	(80)	(30)	不明	壺・管玉	中期中葉	

	出流原		第７号墓壙	Ⅰ	楕円形	(125)	(100)	(35)	不明	壺・人骨	中期中葉	
			第８号墓壙	Ⅰ	楕円形	(125)	(85)	(30)	不明	壺	中期中葉	
			第９号墓壙	Ⅰ	楕円形	(75)	(60)	(20)	不明	壺・コップ形か・管玉	中期中葉	
			第10号墓壙	Ⅰ	楕円形	(100)	(90)	(30)	不明	壺・管玉	中期中葉	
			第11号墓壙	Ⅰ	楕円形	(175)	(150)	(60)	不明	壺・管玉・人面土器・人骨・歯	中期中葉	
			第12号墓壙	Ⅰ	楕円形	(100)	(85)	(20)	不明	壺・管玉	中期中葉	
			第13号墓壙	Ⅰ	楕円形	(100)	(95)	(25)	不明	壺	中期中葉	
			第14号墓壙	Ⅰ	円形	(45)	-	(25)	不明	壺・甕	中期中葉	
			第15号墓壙	Ⅰ	楕円形	(75)	(60)	(30)	不明	壺	中期中葉	
			第16号墓壙	Ⅰ	楕円形	(60)	(55)	(20)	不明	壺・管玉	中期中葉	
			第17号墓壙	Ⅰ	不整形	(125)	(110)	(25)	不明	壺	中期中葉	
			第18号墓壙	Ⅰ	不整形	(100)	(95)	(30)	不明	壺	中期中葉	
			第19号墓壙	Ⅰ	楕円形	(75)	(65)	(20)	不明	壺	中期中葉	
			第20号墓壙	Ⅰ	不整形	(85)	(70)	(25)	不明	壺・焼人骨	中期中葉	
			第21号墓壙	Ⅰ	楕円形	(110)	(100)	(35)	不明	壺	中期中葉	
			第22号墓壙	Ⅰ	不整形	(120)	(100)	(35)	不明	壺・甕	中期中葉	
			第23号墓壙	Ⅰ	楕円形	(105)	(80)	(35)	不明	壺・管玉	中期中葉	
			第24号墓壙	Ⅰ	楕円形	(110)	(100)	(35)	不明	壺・甕・石鏃	中期中葉	
			第25号墓壙	Ⅰ	楕円形	(125)	(90)	(35)	不明	壺	中期中葉	
			第26号墓壙	Ⅰ	楕円形	(110)	(80)	(25)	不明	壺・人骨	中期中葉	
			第27号墓壙	Ⅰ	楕円形	(80)	(70)	(25)	不明	壺・管玉	中期中葉	
			第28号墓壙	Ⅰ	不整形	(115)	(95)	(40)	不明	壺	中期中葉	
			第29号墓壙	Ⅰ	楕円形	(85)	(70)	(25)	不明	壺	中期中葉	
			第30号墓壙	Ⅰ	楕円形	(65)	(60)	(25)	不明	壺	中期中葉	
			第31号墓壙	Ⅰ	楕円形	(130)	(120)	(25)	不明	壺・管玉	中期中葉	
			第32号墓壙	Ⅰ	楕円形	(80)	(65)	(35)	不明	壺	中期中葉	
			第33号墓壙	Ⅰ	楕円形	(110)	(100)	(40)	不明	壺・管玉	中期中葉	
			第34号墓壙	Ⅰ	楕円形	(55)	-	(25)	不明	壺	中期中葉	
			第35号墓壙	Ⅰ	円形	(115)	(110)	(30)	不明	壺	中期中葉	
			第36号墓壙	Ⅰ	不整形	135	110	40	不明	壺・甕・管玉・石鏃	中期中葉	
			第37号墓壙	Ⅰ	不整形	(125)	(100)	(25)	不明	浅鉢・管玉・石鏃	中期中葉	
8	中日向	足利市高松町字原603-1	SX-01	Ⅳ	円形	106	90	62	自然埋没	甕破片・くぼみ石	中期中葉	
			SX-06	Ⅰ	楕円形	70	60	26	不明	壺	中期中葉	
			SX-07	Ⅳ	楕円形	104	88	20	不明	朱のついた石	中期中葉	
9	小倉水神社裏	西方村本城字小倉	２号土坑	Ⅳ	不整円形	280	-	25	不明	壺・深鉢・甕・礫器・石鏃	前期末葉	
			３号土坑	Ⅳ	不整楕円形	180	80	20	自然埋没	深鉢・甕	前期末葉	
10	御新田	壬生町羽生田	SK-10	Ⅳ	隅丸五角形	150	100	9	自然堆積	壺・甕破片	中期後半	
			SK-11	Ⅳ	楕円形	159	139	30	自然堆積	甕	中期後半	
			SK-12	Ⅳ	不整楕円形	122	92	10	自然堆積	甕破片	中期後半	
			SK-13	Ⅳ	長円形	95	79	23	自然堆積か	甕破片	中期後半	
			SK-14	Ⅳ	円形	26	25	35	自然堆積か	甕破片	中期後半	
11	富士前	壬生町羽生田	SK-01	Ⅳ	円形	170	140	88	自然堆積	甕破片	中期後半	
12	殿山	上三川町上神主字打越	YD- 1	Ⅰ	円形	136	145	30	自然埋没か	深鉢	中期前葉	
13	大山	上三川町下神主字大	L-2	Ⅳ	不整隅丸方	400	320	36	貼床あり	石鏃	時期不明	
			M-8	Ⅳ	不整円形	30	28	12	自然埋没か	甕破片	後期	
14	下古館	国分寺町小金井字下古館	1774号土坑	Ⅳ	楕円形	-	140	24	不明	甕	中期後半	
			1855号土坑	Ⅳ	楕円形	130	110	10	不明	甕	前期末葉	
			1857号土坑	Ⅳ	隅丸長方形	266	188	16	不明	壺・甕	中期後半	
15	諏訪山	南河内町薬師寺字諏訪山	A-SK-030	Ⅰ	楕円形	54	45	20	人為埋土か	甕	中期後半	
16	谷館野東	南河内町薬師寺字谷館野	C1-SX-001	Ⅳ	不整方形	-	364	20	自然埋没か	壺	後期	
			C1-SK-026	Ⅳ	円形	114	-	14	自然埋没か	甕破片	後期	
			C1-SK-037	Ⅳ	不整形	-	194	22	自然埋没か	甕破片	後期	
			C1-SK-052	Ⅳ	楕円形	184	136	48	自然埋没か	壺・甕破片	後期	
			C2-SK-119	Ⅳ	楕円形	388	260	20	自然埋没か	甕破片・剥片・石核・石器	後期	
			C1-SK-544	Ⅳ	円形	270	276	42	自然埋没か	甕破片・剥片・石核・石器	後期	

17	上芝	国分寺町柴字上芝	C1-SK-125	Ⅰ	円形	179	-	22	自然埋没か	甕	中期後半	
18	烏森	国分寺町柴字烏森	B1-SK001	Ⅳ	隅丸不整方形	220	216	32	自然埋没	甕	後期	
			B1-SK002	Ⅳ	不整形	295	170	25	自然埋没	壺・甕	後期	
			B1-SK015	Ⅳ	円形	175	150	15	自然埋没か	壺	前期末～中期初頭	
			B1-SK016	Ⅳ	隅丸方形	185	165	27	自然埋没	壺	前期末～中期初頭	
19	柴工業団地内	国分寺町柴	1号土坑	Ⅰ	不整楕円形	190	80	20	不明	壺	中期前葉	
			2号土坑	Ⅰ	不整楕円形	185	115	20	不明	甕・深鉢・蓋・石鏃	中期前葉	
			3号土坑	Ⅰ	円形	100	-	25	不明	壺・注口土器・深鉢・石鏃	中期前葉	
			4号土坑	Ⅰ	円形	100	-	25	不明	壺・深鉢	中期前葉	
			5号土坑	Ⅳ	円形	105	95	26	自然埋没か	壺・甕・勾玉・臼玉	中期前葉	
			6号土坑	Ⅳ	不整四角形	136	136	30	不明	小破片	時期不明	
20	磯岡北	上三川町磯岡字コムナセゴ字都宮市東谷町字笹塚原	第2号土坑	Ⅳ	楕円形	210	205	15	自然埋没か	破片・剥片	中期後半	
			第3号土坑	Ⅳ	楕円形	335	290	10	自然埋没	壺・甕	中期後半	
21	磯岡	上三川町磯岡398ほか	SK-96	Ⅳ	不整楕円形	305	256	40	自然堆積	壺・甕破片	中期後半	
			SK-98	Ⅳ	楕円形	290	178	33	自然堆積	甕破片	中期後半	
22	仏沼	上三川町上蒲生2500	第3号遺構	Ⅳ	不整楕円形	260	215	34	不明	壺・甕破片	中期後半	
23	新福寺	益子町大沢字新福寺	-	Ⅰ	楕円形	250	210	80	不明	深鉢・磨製石斧	中期後半	
24	箕輪	茂木町坂井字箕輪	-	Ⅳ	円形	32	-	27	不明	壺・鉢・剥片・石核・砥石・炭化種子	時期不明	
25	八幡模東	小山市中久喜1059番地	SK-23	Ⅳ	円形	150	-	25	人為埋土か	甕	後期	
26	田間東道北	小山市田間字東道北・宿尻	SK-020	Ⅳ	隅丸方形	150	90	40	人為埋土か	壺破片	後期	SX-004の集石が伴う可能性もある。
			SK-042	Ⅳ	円形	220	200	50	自然埋没	壺破片	後期	
27	乙女不動原亀田	小山市乙女1417ほか	5号土坑C	Ⅳ	隅丸長方形	210	150	100	自然埋没か	甕破片	時期不明	時期の違う可能性有
28	清六Ⅲ	野木町野木2248?2250	SK-300	Ⅰ	円形	128	123	37	人為埋土か	壺・管玉	中期中葉	
			SK-301	Ⅰ	円形	84	79	23	人為埋土か	壺	中期中葉	
			SK-302	Ⅰ	円形	34	37	9	人為埋土か	壺	中期中葉	
			SK-303	Ⅰ	円形	34	37	9	人為埋土か	壺	中期中葉	
			SK-304	Ⅰ	円形	78	74	3	人為埋土か	壺・管玉	中期中葉	
			SK-305	Ⅰ	楕円形	-	81	23	人為埋土か	壺	中期中葉	
			SK-306	Ⅰ	楕円形	39	37	11	人為埋土か	壺	中期中葉	
			SK-307	Ⅴ	円形	48	46	7	人為埋土か	-	時期不明	
			SK-308	Ⅴ	楕円形	63	47	21	人為埋土か	-	時期不明	
			SK-309	Ⅴ	楕円形	49	42	17	人為埋土か	-	時期不明	
			SK-310	Ⅳ	楕円形	74	45	12	人為埋土か	甕	中期中葉	
			SK-311	Ⅳ	円形	44	43	12	人為埋土か	高坏・管玉	中期中葉	
			SK-312	Ⅰ	楕円形	112	64	12	人為埋土か	壺	中期中葉	
			SK-313	Ⅰ	楕円形	114	88	8	人為埋土か	壺	中期中葉	
			SK-314	Ⅰ	楕円形	60	38	17	人為埋土か	壺	中期中葉	
			SK-315	Ⅰ	楕円形	66	44	11	人為埋土か	壺	中期中葉	
			SK-318	Ⅴ	円形	29	-	10	人為埋土か	-	中期中葉	
			SK-319	Ⅴ	楕円形	-	90	12	人為埋土か	-	中期中葉	
			SK-320	Ⅰ	円形	20	-	13	人為埋土か	壺	中期中葉	
29	長堤	益子町長堤字胡畑	1号土坑	Ⅴ	長円形	140	120	1.2	不明	なし	時期不明	
30	鹿沼流通業務団地内	鹿沼市上石川	SK-267	Ⅳ	円形	145	-	15	自然堆積	壺	中期中葉	
			SK-380	Ⅰ	楕円形	86	70	32	人為埋土か	壺	中期中葉	

※調査者の所見により、弥生時代の土坑とされているものは掲載した。
※径のみの土坑は長軸のみ、、全体が調査できなかった土坑は長軸を不明とし、短軸のみ記載した。形状・覆土については調査者の所見による。所見がないものについては筆者が判断した。
※後中塒遺跡・長谷津遺跡でも土坑が出土しているが、図や記載がないため、表には含まない[1]。

棄された可能性が考えられる。

・烏森遺跡

国分寺町に所在する。台地上に立地し、標高は53m前後で低地との比高差は約2mである。Ⅳ類である。同時期かどうかは不明であるが、住居跡に近接して土坑が存在している。土坑の

１つからは底面より10cmほど浮いた状態で焼土が確認されている。

・磯岡北遺跡

上三川町に所在する。微高地上に立地し、標高は81m前後で低地との比高差は約0.5～１m である。土坑内より多量の土器の破片が出土している。完形になる土器が少なく、土坑の廃棄時には土器捨て場として利用されていた可能性が高い。遺跡内に確認されている中期後半の住居跡と同時期と考えられる。

・田間東道北遺跡

小山市に所在する。台地縁辺に立地し、標高は33m前後で低地との比高差は約８mである。Ⅳ類である。土器の破片を出土する隅丸方形の土坑に近接して、集石が確認されているが、その下から土坑は確認されていない。

Ⅴ　おわりに

前項では土坑の中で特に特徴的な遺跡を取り上げてみた。Ⅰ類からⅤ類に分類され、なおかつ個々の土坑により状況が違うことがわかる。

栃木県内における弥生時代のものと考えられる土坑[2]は、30遺跡で確認され、Ⅰ類のみが確認される遺跡は８遺跡、Ⅳ類のみは15遺跡、Ⅴ類のみは２遺跡で、Ⅱ類、Ⅲ類のみの遺跡は無い。Ⅰ～Ⅴ類が確認される遺跡は１遺跡、Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ類は１遺跡、Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ類は１遺跡、ⅠとⅣ類は３遺跡確認されている。土坑のほとんどが個体になる土器が出土するⅠ類と少量の遺物しか出土しないⅣ類の土坑である。時期的な傾向をみてみると、中期前半にはⅠ類がほとんどで、Ⅳ類とⅤ類が若干である。中期後半になるとⅣ類がほとんどで、Ⅰ類のほかにもⅡ・Ⅲ類がみられるなど、多様化する。後期にはⅣ類のみが確認されている。

Ⅰ類の他、Ⅱ類～Ⅴ類の中には墓である可能性の考えられるものがある。Ⅱ類とⅢ類がそれに当たる。県内ではほとんど類例がみられないが、他県ではいくつかある。

Ⅱ類の礫が確認されている土坑の類例は、福島県の窪田遺跡が挙げられる。この遺跡は縄文時代後期後葉～弥生時代中期の遺跡である。住居跡に近接して土坑が存在するなど、山崎北遺跡と同様の状況を示す。違う点は棺として埋納されている土器が礫下の土坑内から確認されている点である。

Ⅲ類の粘土が確認されている土坑は、福島県の岩代陣場遺跡が挙げられる。ここでは配石遺構[3]と土坑墓が確認され、墓として認定されている（馬目1971）。地山に橙色粘土層があるため検討の余地が残るが、第２号土坑の上に粘土が盛られている。

また、新潟県の村尻遺跡の第12号土坑では粘土が底面近くより確認され、棺を固定する施設としている（田中ほか1981）。Ⅱ類でもあり、覆土の上層からは礫が集中して確認され、墓標

の可能性を指摘されている。第95号土坑では底面に粘土を敷いている。

類例として挙げた３遺跡とも、土坑が墓であろうとされていることから、Ⅱ類とⅢ類も墓である可能性が指摘できる。

Ⅰ～Ⅲ類を墓と仮定し、県内の弥生時代の墓と住居跡の関係について簡単に整理してみる。

前期から中期中葉にかけては、Ⅰ類の再葬墓がほとんどである。遺跡内において、墓である土坑は確認されるが住居跡は確認されない遺跡が多い。確認されている遺跡のほとんどが低地との比高差のあるところであり、居住域とは別の高所に墓を営んでいたと考えられる(4)。

中期後半になると山崎北遺跡では土坑と住居跡が遺跡内においてセットで確認され、居住域内に墓を営んでいる。これが他の遺跡でも同じなのかは不明である。諏訪山遺跡では、周囲に住居跡は確認されていないからである。また、この時期になると他県では福島県の一ノ堰Ｂ遺跡のように土坑墓が中心になったり、南関東地方では方形周溝墓へと、墓制が変化していくが、県内ではこの時期の墓制が明らかになっていない。しかし、現時点では未報告である栃木市の大塚遺跡において、土器棺墓と土坑墓と考えられる土坑群が確認されており、その分析が進めば当時代の墓制についても明らかになってくると予想され、今後に期待できる。

後期はさらに不明である。殿山遺跡においては、住居跡が21軒確認されたにもかかわらず、土坑が確認されていないなど、土坑と住居跡の位置関係から考えても、居住域と墓域との分離が予測できる。

今回は県内の土坑について分類し、若干の検討を加えたのみに留まってしまい、各土坑の性格について、詳しくは述べることができなかったが、最後に今後検討するにあたっての問題点を整理しておきたい。

Ⅰ類の再葬墓と土器棺墓の問題。再葬墓の中にみられる埋葬の土器を１個体のみ埋納するものの扱いをどうするか。

Ⅱ類とⅢ類が折衷する土坑をどう考えていくか、また、粘土が出土する意味（例えば使われ方など）を考える必要性がある。

分類を進める上で、土坑の中から出土する土器については、棺として使用されたものなのか、あるいは福島県の一ノ堰Ｂ遺跡でみられるような土坑の上に土器を破砕して播いたような状況（芳賀ほか1988）なのかそれともそれ以外なのかの区別が難しい。特に削平されてしまった土坑は土器の一部のみが確認されるものが多く、判断しにくい。これをどう判断するか。

また、棺か副葬かという問題もある。出土する土器のうち、小形品は副葬と考えられるが、茨城県の殿内遺跡において小形の壺の中から歯が確認された例もあり、一概に全部が副葬品とはいえない。今後、検討していく必要がある。

もちろん、墓だけなく、他の可能性も考える必要がある。長軸250cm以上短軸200cm以上の土

坑は住居跡などの可能性が考えられるし、貯蔵穴、廃棄の場などとして使用した可能性も挙げられるのではないだろうか。今後の類例の増加を待ち、さらに検討を進めていきたい。

註

(1)　後中塒遺跡（矢板市）では径１ｍ以内の小竪穴が確認されており、土器は出土していないが土坑墓と考えられる。また、別地点からは小竪穴内に自然石を埋没させた遺構が発見されている。長谷津遺跡（市貝町）では再葬墓と思われる細頸壷が確認されている。

(2)　土器の編年のうち、中期後半～後期については岩上・藤田（1995）を参考にし、烏森段階からを後期として扱っている。

(3)　礫の出土状況から、Ⅱ類に相当すると考えられる。

(4)　同じ時期の住居跡とともに確認されている遺跡は土坑の確認されている30遺跡中、13遺跡である。調査された面積にもよるが、同じ遺跡内に土坑が確認されることが多い。土坑のみ確認されている遺跡は17遺跡である。

参考文献

秋元陽光　1988『薄市遺跡・大山遺跡』　上三川町教育委員会

飯島義雄・宮崎重雄・外山和夫　1987「所謂「再葬墓」の再検討に向けての予察」『群馬県立歴史博物館紀要』第8号　群馬県立歴史博物館

石川均・鏑木理広ほか　1985『免の内台遺跡調査概報Ⅰ』芳賀町教育委員会

石川均ほか　1985『戸木内遺跡』　粟野町教育委員会

石川均・長谷川操・久保哲三　1986『戸木内遺跡Ⅱ』　粟野町教育委員会

岩上照朗・藤田典夫　1997「栃木県における弥生時代中期後半の土器群」『研究紀要』第5号　栃木県埋蔵文化財センター

上野修一・今平昌子　1998『山崎北・金沢・台耕上・関口遺跡』　栃木県教育委員会　㈶栃木県文化振興事業団

上原康子　1999『清六Ⅲ遺跡』Ⅰ　栃木県教育委員会　㈶栃木県文化振興事業団

内山敏行　1997『戸木内遺跡第４次調査』　栃木県教育委員会・㈶栃木県文化振興事業団

大川清・吉岡秀範　1995『殿山遺跡Ⅰ』　上三川町教育委員会・窯業史研究所

大澤伸啓　1998『中日向13号墳発掘調査報告書』　足利市教育委員会

亀田幸久　1996『八幡根東遺跡』　栃木県教育委員会・㈶栃木県文化振興事業団

亀田幸久　2000「大塚遺跡」『栃木県埋蔵文化財センター年報』第10号　栃木県埋蔵文化財センター

斉藤弘ほか　1994『田間東道北遺跡』　栃木県教育委員会　㈶栃木県文化振興事業団

山武考古学研究所　1992『免の内台遺跡』　芳賀町教育委員会

杉原荘介ほか　1984『栃木県出流原遺跡における弥生時代の再葬墓群』　明治大学文学部研究報告考古学第8冊

杉原荘介ほか　1969「茨城県殿内（浮島）における縄文・弥生両時代の遺跡」『考古学集刊』第４巻第３

号東京考古學会
竹澤謙ほか　1979『安蘇郡葛生町上仙波遺跡発掘調査報告』　栃木県教育委員会
田代隆　1993『谷館野東・谷館野西・上芝遺跡』　栃木県教育委員会　㈶栃木県文化振興事業団
田代隆　1994『諏訪山・諏訪山北遺跡』　栃木県教育委員会　㈶栃木県文化振興事業団
田代隆　1995『下古館遺跡』　栃木県教育委員会・㈶栃木県文化振興事業団
田中耕作・石川日出志・阿部朝衛ほか　1981『村尻遺跡Ⅰ』　新発田市教育委員会
塚原孝一・田熊清彦・初山孝之　1999『東谷・中島地区遺跡群№1』　栃木県教育委員会　㈶栃木県文化振興事業団
塚本師也　1990『小倉水神社裏・水木東遺跡』　栃木県教育委員会　㈶栃木県文化振興事業団
中村紀男　1971『栃木日産遺跡』　駒沢大学考古学研究会
中村紀男・毎澤信博　1990「長谷津遺跡」『市貝町史』第1巻自然・原始・古代・中世資料編　市貝町史編さん委員会
小林與三郎・沼田頼輔　1900「下野国河内郡野沢村発見の土器について」『東京人類學會雑誌』第15巻第166号　東京人類學會
芳賀英一ほか　1988『国営会津農業水利事業関連遺跡調査報告Ⅶ』　福島県教育委員会
橋本澄朗　1980「新福寺遺跡」『栃木県埋蔵文化財行政年報』　栃木県教育委員会
橋本澄朗・石川均・中山晋　1981『柴工業団地内遺跡』　栃木県教育委員会
橋本澄朗・藤田典夫　1988「栃木県の弥生墓制資料」　第9回三県シンポジウム『東日本の弥生墓制』
山口仁・初山孝行ほか　1991『鹿沼流通業務団地内遺跡』　栃木県教育委員会
塙　静夫　1972　「弥生文化」『栃木県の考古学』　吉川弘文館
塙静夫・竹澤謙・木村浩　1974『上山遺跡』　今市市教育委員会・栃木県教育委員会
塙静夫　1976「後中塘遺跡」『栃木県史』資料編考古1　栃木県史編さん委員会
塙静夫　1979「弥生時代」『宇都宮市史』第1巻
藤田典夫　1986「弥生時代の遺構と遺物」『烏森遺跡』　栃木県教育委員会　㈶栃木県文化振興事業団
藤田典夫　1998「弥生文化の発展」『南河内町史』通史編自然・考古　南河内町史編さん委員会
藤田典夫・安藤美保　2000『杉村・磯岡・磯岡北』　栃木県教育委員会　㈶栃木県文化振興事業団
古川利意・和田聡　1987『窪田遺跡』　只見町教育委員会
星田享二　1976「東日本弥生時代初頭の土器と墓制」『史館』第7号
細谷正策・尾花源司　1987『宇都宮競馬場附属総合きゅう舎建設地内遺跡』　栃木県教育委員会　㈶栃木県文化振興事業団
毎澤信博　1992「箕輪遺跡出土の弥生時代遺物について」『茂木町史資料』第4集　茂木町史編さん委員会
馬目順一　1971『岩代陣場遺跡の研究』　本宮町教育委員会
三沢正善ほか　1977『乙女不動原亀田遺跡第2次発掘調査』　小山市教育委員会
茂木克美　1995「栃木県内における弥生時代の再葬墓」『唐沢考古』第14号　唐沢考古会
森田久男　1986「町屋遺跡」『栃木県埋蔵文化財行政年報』　栃木県教育委員会

柳川宏　1978『長堤遺跡発掘調査報告書』　栃木県教育委員会

挿図出典

第１図　著者作図（上野・今平1998）に一部加筆

第２図　著者作図（上野・今平1998）に一部加筆

第３図　報告書より転載・一部加筆（上野・今平1998）

第４図　著者作図

第５図　著者作図

第６図　各報告書より転載・一部加筆